

## 全国学力・学習状況調査の結果について

- 調査期日：令和4年4月19日（火）
- 調査対象：小学校第6学年及び中学校第3学年
- 調査内容・1 教科に関する調査〔国語、算数・数学、理科〕  
2 生活習慣や学習環境に関する質問紙調査

### 調査結果の概要

#### 【小学校 国語】

領域	結果の概要（◇：成果 ◆：課題）
話すこと・ 聞くこと	<ul style="list-style-type: none"><li>◇ 必要なことを質問し、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことは全国平均と比べ正答率が高い傾向にある。</li><li>◆ 互いの立場や意図を明確にしながらか計画的に話し合い、自分の考えをまとめることに課題がある。</li></ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"><li>◇ 文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える設問では、全国平均に比べ正答率が高い傾向にある。</li><li>◆ 文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見つけて書くことに課題がある。</li></ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"><li>◇ 物語を読んで登場人物の気持ちや相互関係について、描写をもとに捉える設問では、全国平均と比べ正答率が高い傾向にある。</li><li>◆ 人物像や物語などの全体像を具体的に想像したり、表現の効果を考えたりすることに課題がある。</li><li>◆ 初見の文章で、登場人物の人物像や場面設定などについて、限られた時間の中で内容を捉えることや叙述をもとに登場人物の行動や気持ちを考えることに課題がある。</li></ul>
言語について	<ul style="list-style-type: none"><li>◇ 話し言葉と書き言葉との違いや言葉には相手とのつながりをつくる働きがあることへの理解については全国平均と比べ正答率が高い傾向にある。</li><li>◆ 漢字の習得が不十分であり、文の中で正しく使うことに課題がある。</li><li>◆ 漢字の仮名の大きさ、配列に注意して書くことに課題がある。</li></ul>
<b>今後に向けて</b>	
<p>「書くこと」においては、相手や目的を明確にして、自らが推敲する必要性を実感して書くことができる言語活動を設定したり、感想や意見を具体的に述べ合い、自分の文章のよいところを見つけたりすることができるように指導していくことが大切である。そのために、文章全体を見たときに、内容や表現に一貫性があるか、目的や意図に照らして適切な構成や記述になっているか、事実と感想、意見等が区別して書かれているか、引用の仕方、図表やグラフなどの使い方は適切かといったことなどを観点として、文や文章を推敲したり、表記の仕方や使い方と関連を図って指導したりすることが効果的である。</p> <p>「言語についての知識・理解・技能」においては、新単元や新出漢字の学習に関連させて辞書引きを取り入れたり、同音異義語を使い分けたりする学習を効果的に指導することで、語彙を増やし、文や文章の中で正しく使うことができるようにする。総合的な学習の時間などと関連させながら、相手の読みやすさを考えて、行の中心に文字の中心をそろえて書くなど、他教科との関連や日常生活とのつながりを意識して書く力を身に付けていく必要がある。</p>	

【中学校 国語】

領 域	結果の概要（◇：成果 ◆：課題）
話すこと・ 聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 聞き手の興味・関心を考慮した表現の工夫や、論理の展開などに注意して聞くなどにおいて、全国平均に比べ正答率が高い。</li> <li>◆ 自分の考えを読み手にわかりやすく伝えるための表現の工夫が課題となる。</li> </ul>
書くこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く問題において全国平均に比べ正答率が高い。</li> <li>◇ 資料を読み取り、そこから必要な情報を引用し、意見文を完成させる問題では全国平均正答率を上回っている。</li> <li>◆ スピーチ原稿などのわかりやすく工夫した文章表現や、場面と場面、場面と描写などを結び付け、解釈を交えながら書くことへの無答が多く見られる。</li> </ul>
読むこと	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 話の展開を取り上げ、情景描写をもとに内容を解釈する問題において、全国平均に比べ正答率が高い傾向にある。</li> <li>◆ 話の展開に沿って、登場人物の行動や心情を並べ替えることに課題がある。</li> </ul>
言語について	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 品詞（助動詞）の働きについて理解し、目的に応じて使う問題においては、全国平均に比べ正答率が高い。</li> <li>◆ 文脈に即して漢字を正しく書く問題（訓読み）において、全国平均に比べ正答率が低い傾向にある。</li> <li>◆ 表現技法（比喩表現）についての理解を確かめる問題では、全国平均正答率を大きく下回っている。</li> <li>◆ 書写に関する問題全般で、全国平均正答率を下回っている。特に行書の特徴については、書き順や点画の注意点が理解できていない。</li> </ul>
<b>今後に向けて</b>	
<p>「読むこと」においては、情景描写をもとに話の内容を解釈することが身に付いている一方で、その考えを説明するための文章を書くことや、登場人物の心情の変化を読み取ることに課題がある。今後の「読むこと」における学習指導では、内容を理解し、その考えに至る根拠を明確にして説明するために、「書くこと」や「話すこと・聞くこと」の領域と関連付けながら指導していくことが求められる。事実にもとづいた理由（主に登場人物の言動）が、文章中でどのように捉えているかを掴み、解釈し、自分の言葉で説明する、または文章化するという一連の流れを系統立てた学習指導を進めることは、生徒の読解力向上のために、きわめて有効な手立てである。</p> <p>「言語についての知識・理解・技能」においては、漢字を書く力における課題が浮き彫りとなった。端末使用に伴い、ワープロによる文字変換に頼る機会も増え、書く機会が徐々に少なくなっていることも要因の一つと考えられる。漢字を学ぶ時間を確保し、それぞれの字のもつ意味や成り立ちについての解説を施すことの必要性が大いに感じられた。表現技法についても、詩や短歌、俳句などに見られる表現技法が、文学作品などにも同様に見られることを、生徒自らが発見し、理解に繋がるための授業改善が求められる。また、書写の時間を十分に確保し、単に作品づくりの練習、清書のみにとどまるのではなく、学習指導要領解説に準じた指導の徹底を図ることが不可欠である。</p>	

【小学校 算数】

領域	結果の概要（◇：成果 ◆：課題）
数と計算	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 示された場面を解釈し、除法で求めることができる理由を記述することができる。</li> <li>◆ 二つの数の最小公倍数を求めることに課題がある。</li> <li>◆ 示された場面において、目的に合った数の処理の仕方を考察することに課題がある。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質、構成の仕方について理解することができる。</li> <li>◆ 図形の意味や性質を基に、作図のプログラムを考える力に課題がある。</li> <li>◆ 示された作図の手順を基に、図形を構成する要素に着目し、図形の名称を判断することに課題がある。</li> </ul>
測定 変化と関係	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 百分率で表された割合を分数で表すことができる。</li> <li>◆ 示された場面において、割合を使用することに課題がある。</li> <li>◆ 比例関係を用いて、未知の数量の求め方と答えを記述することに課題がある。</li> </ul>
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 目的に応じて円グラフを選択することができる。</li> <li>◆ 表の意味を理解することに課題がある。</li> <li>◆ 分類されたデータを基に、目的に応じてデータの特徴を考察することに課題がある。</li> </ul>
<b>今後に向けて</b>	
<p>「数と計算」においては、算数で学習したことを基に、目的に応じて、数量の関係に着目し、数の処理の仕方を考えることが重要である。そのために、目的に応じて、問題場面の数量の関係に着目し、除法が用いられる場面であると解釈して、除法を用いたり、切り捨てや四捨五入などの数の処理の仕方を考えたりできるようにすることが大切である。また、数の処理において、具体的な場面に対応させながら、乗法を用いたり、公倍数や公約数を用いたりできるようにすることも大切である。</p> <p>「図形」においては、観察や構成などの活動を通して、図形の意味を理解したり、図形の性質を見付けたり、図形の性質を確かめたりすることが重要である。そのために、図形を構成する要素に着目して、図形の意味や性質を基に、作図の仕方を多様に考えることができるようにすることが大切である。また、辺の数や辺の長さ、角の大きさなどに着目して、図形の意味や性質を基に、作図の手順からどのような図形ができるかについて判断することや、プログラミング教育との関連付けも大切である。</p> <p>「変化と関係」においては、割合を用いて問題を解決するために、問題場面の数量の関係に着目し、基準量、比較量、割合の関係や、伴って変わる二つの数量の関係について考察して、数学的に表現・処理することが重要である。そのために、日常の具体的な場面に対応させながら割合について理解したり、図や式などを用いて基準量と比較量の間係を表したりすることができるようにすることが大切である。</p> <p>「データの活用」においては、目的に応じて、必要なデータを収集し、観点を決めて分類整理し、データの特徴や傾向に着目して考察することが重要である。そのために、表の意味やグラフの特徴を理解し、目的に応じて、表やグラフに表したり、表やグラフからデータの特徴や傾向を読み取ったりできるようにすることが大切である。また、数量の関係を式に表したり、式を読み取ったりできるようにすることも大切である。</p>	

【中学校 数学】

領域	結果の概要 (◇：成果 ◆：課題)
数と式	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 結論が成り立つための前提を考え、新たな事柄を見だし、説明することができる。</li> <li>◆ 自然数を素数の積で表すことに課題がある。</li> <li>◆ 簡単な連立二元一次方程式を解くことに課題がある。</li> <li>◆ 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することに課題がある。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 図形の問題について、最後まで解こうと記述することができる。</li> <li>◆ 命題や推測した事柄について考察する場面において、反例の意味を理解し、筋道を立てて考えることに課題がある。</li> <li>◆ 平面図形の合同の意味及び三角形の合同条件について理解することに課題がある。</li> <li>◆ 三角形や平行四辺形の基本的な性質などを具体的な場面で活用することに課題がある。</li> </ul>
関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる。</li> <li>◆ 変化の割合の意味を理解していないことに課題がある。</li> <li>◆ 与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることに課題がある。</li> </ul>
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 多数の観察や多数回の試行によって得られる確率の必要性和意味を理解することができる。</li> <li>◇ 目的に応じてデータを収集して分析し、そのデータの分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断することができる。</li> <li>◆ 四分位範囲や箱ひげ図の必要性和意味を理解することに課題がある。</li> </ul>
<b>今後に向けて</b>	
<p>「数と式」においては、自然数を素数の積で表すことや簡単な連立二元一次方程式を解くことを苦手とする生徒が見られた。基本的な技能の内容であるが、各学年で学習したあとに知識・技能を確かめることがあまりないため、解き方を忘れてしまったと考えられる。定期的に知識・技能を確かめる時間が必要である。また、文字を用いた式について、数学的活動を通して目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明することに課題が見られた。文字を用いて式に表現したり、式の意味を読み取ったりする力を養うことが大切である。</p> <p>「図形」においては、基本的な図形の性質の理解から具体的な場面での利用まで、多くの課題が見られた。図形の定義と性質を理解するとともに、条件を変更することで新たな性質を見いだせるように、統合的・発展的な学習を取り入れる必要がある。また、反例を示す問題では数の性質のみならず、図形においても反例を示すことができるように指導していくことが大切である。その際に、成り立たない例を1つ挙げることで反例となることを押さえ、示し方を指導していかなければならない。</p> <p>「関数」においては、関数の特徴を表、式、グラフで捉えるとともに、それらを相互に関連付けることに課題が見られた。具体的な事象の中から関数関係にある二つの数量 <math>x</math>、<math>y</math> を取り出し、それらの変化や対応を調べることを通して、関数関係を見だし考察し表現する力を3年間にわたって徐々に高めていくことが大切である。</p> <p>「データの活用」においては、目的に応じてデータを収集して処理し、その傾向を読み取って判断することが求められる。今回の箱ひげ図の見方では、四分位範囲やちらばりの意味を的確に捉えることができなかった。中央値を含む代表値や箱ひげ図、ヒストグラムなどの見方を押さえ、不確定な事象を捉え説明したり、目的に応じて判断したりすることを重視した指導が必要である。</p>	

【小学校 理科】

領域	結果の概要（◇：成果 ◆：課題）
エネルギー	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 重ねた日光と的の温度についての問題を的確に把握し、問題を解決するために必要な結果を適切に記録したものを選択することはできている。【技能】</li> <li>◆ 日光が直進するなどの光の性質について理解することに課題がある。【知識】</li> <li>◆ 缶の色と水の温度変化との関係についての実験で得た結果を、分析して、解釈し、具体的な数値や分析した内容にもとづいて、結論の根拠を記述することに課題がある。【分析・解釈】</li> </ul>
粒子	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 一定量の液体の体積をはかり取る器具（メスシリンダー）の名称が知識として定着している。【知識】</li> <li>◆ 水溶液の凍り方について、実験の結果をもとに、それぞれの水溶液が凍る温度を見だし、問題に対してまとめることに課題がある。【検討・改善】</li> </ul>
生命	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ ナナホシテントウに関する問題を解決するために必要な観察の視点をもとに、解決の道筋を構想することはできている。【構想】</li> <li>◆ 情報を分析して、解釈するために、複数の視点をもって比較し、差異点や共通点を見だし、それらをもとに分類することに課題がある。【分析・解釈】</li> </ul>
地球	<ul style="list-style-type: none"> <li>◇ 水が水蒸気になって空気中に含まれていることが理解できている。【知識】</li> <li>◆ 冬の夜の気温の変化の仕方に対する他者の予想をもとに、その予想が確かめられた場合に得られる結果を見通すことに課題がある。【構想】</li> <li>◆ 冬の数日間の天気と気温について整理した資料を、分析して、解釈し、冬の晴れた夜を示す部分を読み取ることに課題がある。【分析・解釈】</li> </ul>
<b>今後に向けて</b>	
<p>今回の調査結果では、問題の枠組みで「分析・解釈」に、特に課題があることがわかった。観察、実験などで得た結果について分析して、解釈し、より妥当な考えをつくりだすことができるようにするためには、結果を事実として分析して、解釈し、それを結論の根拠として表現できるようにすることが重要である。</p> <p>指導に当たっては、結果の具体的な数値や、それを分析した内容などを根拠として表現する場面を設定することが大切である。例えば、問題に対するまとめを行う際に、結果を具体的な数値として学級内で共有し、何を結論の根拠としているのかを明らかにし、より妥当な考えをつくりだす学習活動が考えられる。その際、結果をもとに結論の根拠を記述することが難しい場合には、結論の根拠になる結果の記述例を示し、適切なものを選ぶことができるようにすることも考えられる。</p>	

【中学校 理科】

領 域	結果の概要（◇：成果 ◆：課題）
エネルギー	<p>◇ 変える条件と変えない条件を制御した実験を計画することができる。 【構想】</p> <p>◆ 静電気に関する知識を理解することに課題がある。【知識】</p> <p>◆ 力の働きに関する知識及び技能を活用して、物体に働く重力とつり合う力を説明することはできているが、矢印で表すことに課題がある。【知識】</p> <p>◆ 課題に正対した考察を行うためのグラフを作成する技能を身に付けることに課題がある。【技能】</p> <p>◆ 考察の妥当性を高めるために、実験の計画を検討して改善することに課題がある。【検討・改善】</p>
粒子	<p>◇ 化学変化を粒子の保存性に着目し、分析して解釈することができる。【分析・解釈】</p> <p>◆ 状態変化に関する知識の概念的理解に課題がある。【知識】</p>
生命	<p>◇ 節足動物の外部形態について調べた内容を、生活場所や移動の仕方と関連付けて、体のつくりと働きを分析して解釈することはできている。 【分析・解釈】</p> <p>◆ 知識及び技能を活用して科学的に探究の方法について検討し、探究の過程の見通しをもつことに課題がある。【構想】</p>
地球	<p>◇ 気圧を空気の重さやモデルと関連付けて理解することができている。 【知識】</p> <p>◆ 継続的に記録した空の様子画像や観測データを天気図と関連付けて、天気の変化を分析して解釈することに課題がある。【分析・解釈】</p> <p>◆ 他者の考えについて、多面的、総合的に検討して改善することに課題がある。【検討・改善】</p>
<b>今後に向けて</b>	
<p>今回の調査結果では、問題の枠組みで「検討・改善」に、特に課題があることわかった。特に、身近な物理現象を科学的に探究する上で、考察の妥当性を高めるために、実験結果の処理について振り返り、実験の計画を検討して改善することは大切である。</p> <p>指導にあたっては、実験の測定値の不足から妥当性の高い考察が行えない場合、結果を表したグラフから、改善点を明確にし、実験の計画を検討して改善する学習活動を充実することが考えられる。</p> <p>その際、教師が意図的に課題が出てくるような場面を設定し実験を行うことも必要である。そのような実験を行った上で、改善点を明確にし、それらをもとに自他の考えを比較し、実験の計画を検討して改善する学習場面を設定することが大切である。</p>	